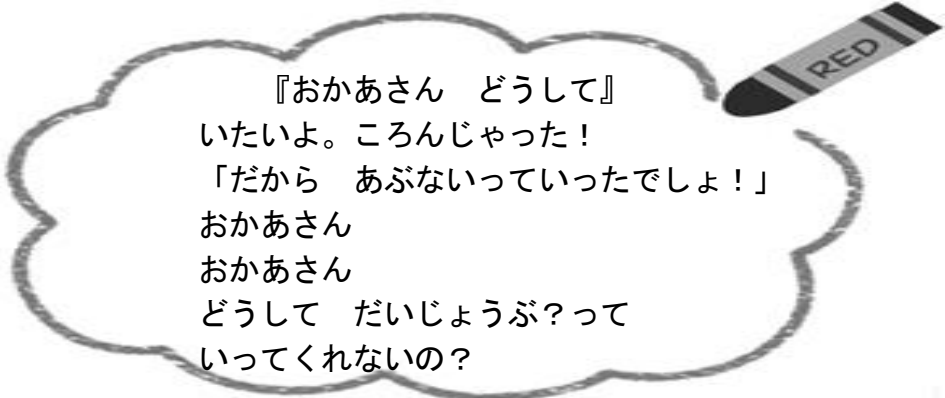


明けましておめでとうございます。

新しい年も、元気いっぱい、笑顔いっぱいの一年でありますように！  
今年も どうぞ宜しくお願い致します。

寒さが厳しいこの時期、庭の片隅に清楚な花をつけた数本の水仙が。  
北風に揺れる凜とした、その立ち姿に、丸まっていた背中をポンと叩かれた気がしました。

今回は、女の子のこんな詩のご紹介です。



『おかあさん どうして』  
いたいよ。ころんじゃった！  
「だから あぶないっていったでしょ！」  
おかあさん  
おかあさん  
どうして だいじょうぶ？って  
いてくれないの？

幼稚園年中女児 Y新聞「こどもの詩」より

注釈には「『どうして大丈夫？って言えなかったのか、後悔しています。』とのお母さんの添え書きが。」と、ありました。

痛みって、実は心とも大きく関わっていると言われます。

先日、ちょうど『痛いのが、痛いのが飛んでけ！』は根拠があるのか？  
という内容の番組が放映されていました。

結論は、大いにあり！ でした。

脳に感じるのは、本来の痛みより触覚の方が優先されるため、痛いところに手を当てる、さするという行為が、痛みをかなり和らげるというのです。

子どもの“軽度のゴチン、”には『痛いのが、痛いのが飛んでけ！』と唱えて抱きしめてあげるのが、効果絶大！

心の癒しもプラスされて、きっと、すぐに元気な笑顔が、戻りますよ！